

【様式】平成28年度組織目標評価(組織名: 畜産技術振興センター)

番号	目標項目	目標値等(目標の内容)	達成状況(成果と課題)	達成度	今後の対応(△・×の項目)	担当所属
1	近江牛の生産基盤拡大	<ul style="list-style-type: none"> 子牛生産頭数 104頭 子牛育成技術の向上(6月齢体重) 雄: 215kg 雌: 185kg 	<ul style="list-style-type: none"> 子牛生産頭数 87頭 子牛育成技術の向上(6月齢体重) 雄: 211kg 雌: 186kg 	△	<ul style="list-style-type: none"> 分娩時事故や給与飼料等の問題から子牛生産頭数が目標に達しなかったが、全体的な飼養管理方法を改善しており、今後、受胎率向上、分娩間隔短縮、分娩時事故の低減を目指します。 	畜産技術振興センター
2		<ul style="list-style-type: none"> 和牛受精卵供給個数100個 受胎率 45% 	<ul style="list-style-type: none"> 和牛受精卵供給個数 72個 受胎率 36% 	△	<ul style="list-style-type: none"> 経膈採卵・体外受精技術を活用した和牛受精卵の確保に引き続き努めるとともに、受精卵の品質および受胎牛の状態等を見極めた上、受胎率向上対策に取り組めます。 	畜産技術振興センター
3	近江牛の生産性効率化	<ul style="list-style-type: none"> コスト効果を考慮した肥育前期の適切なタンパク質の給与量と飼料増給方法を検証します。 	<ul style="list-style-type: none"> 7月にタンパク質給与量検討の試験牛(10頭)を出荷し、飼養成績、枝肉成績、肉質およびコスト効果について検証。試験結果を生産者組織の研修会で報告。 飼料増給法検討の試験牛(10頭)を計画通り3月に出荷し、上記と同様に検証を進める予定。 	○		畜産技術振興センター
4	飼料の県内自給の強化	<ul style="list-style-type: none"> 生稲わらサイレージ調製技術を確立します。 	<ul style="list-style-type: none"> 生稲わらサイレージのβ-カロテン含量は、6カ月以上の長期保存で乾燥稲わらと同程度まで低下、また、酢酸を1%添加することで早期に低下することを確認。稲わらの利用を推進する上での技術指導資料として活用できる。 	○		畜産技術振興センター
5	繁殖和牛分娩間隔の短縮	<ul style="list-style-type: none"> 分娩間隔目標 13.5ヵ月(H27年度成績 13.8ヵ月) 	<ul style="list-style-type: none"> 分娩間隔 13.5ヵ月 	○		畜産技術振興センター

※「達成度」の欄は、年度末の目標の達成について、

◎ 目標を超えて達成(100%超)、○ 目標どおり達成(100%)、

△ 目標の半ば以上の実績(50%以上)、× 目標の半ば以下の実績(50%未満)

に分類・評価して記入してください。なお、評価するにあたり、カッコ書きの数値により難しい場合は、この数値を参考としながら、各目標の内容に応じた評価を行ってください。